

# 米国経済・金融概況 (2023年12月)

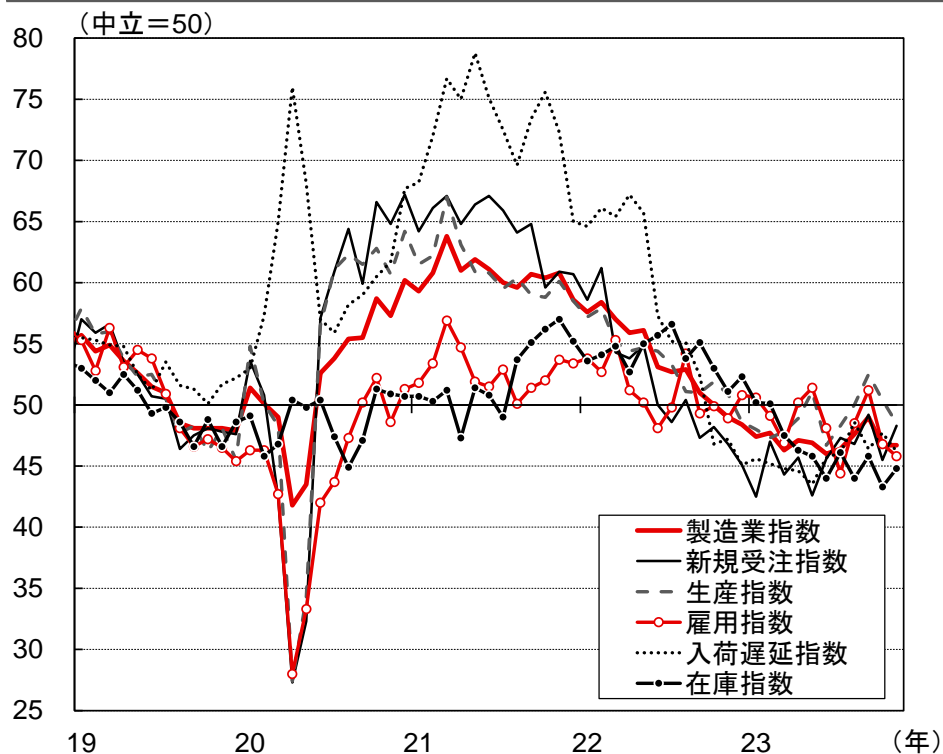
2023年12月18日

経営企画部経済調査室(ニューヨーク)

# 1. 企業活動

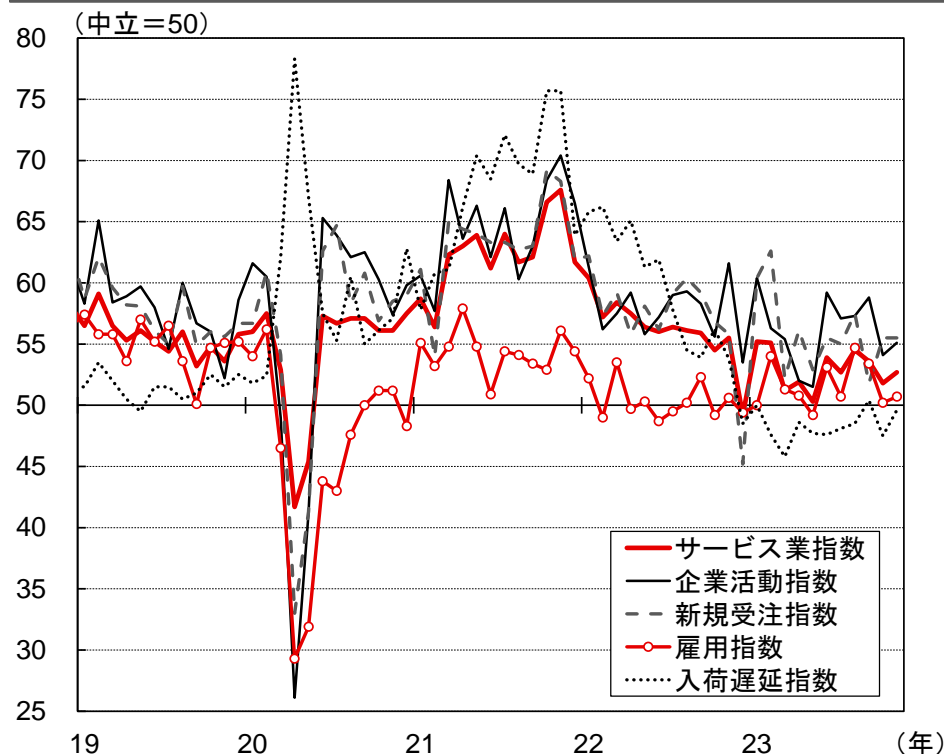
- 製造業の景況感・活動状況を表すISM製造業指数(総合指数)は、11月に46.7(前月比+0.0ポイント)と前月から横這いとなり、13ヵ月連続の50(中立)割れ。指数の構成項目をみると、先行指標の新規受注指数(48.3、同+2.8ポイント)が上昇した一方、生産指数(48.5、同▲1.9ポイント)、入荷遅延指数(46.2、同▲1.5ポイント)、雇用指数(45.8、同▲1.0ポイント)は低下。また、顧客在庫指数(50.8、同+2.2ポイント)が6ヵ月ぶりに50(中立)を上回り、先行きの生産の軟化を示唆。産業別では全18産業のうち3産業が拡大、14産業が縮小、1産業が横這いを報告(10月は2産業が拡大、13産業が縮小、3産業が横這い)。
- 11月のISMサービス業指数(総合指数)は52.7(前月比+0.9ポイント)と3ヵ月ぶりに上昇。入荷遅延指数(49.6、同+2.1ポイント)、企業活動指数(55.1、同+1.0ポイント)、雇用指数(50.7、同+0.5ポイント)がそれぞれ上昇。一方、価格指数(58.3、同▲0.3ポイント)は2ヵ月連続で低下。産業別では全18産業のうち15産業が拡大、3産業が縮小(10月は12産業が拡大、5産業が縮小、1産業が横這い)。

ISM製造業指数の推移



(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の推移

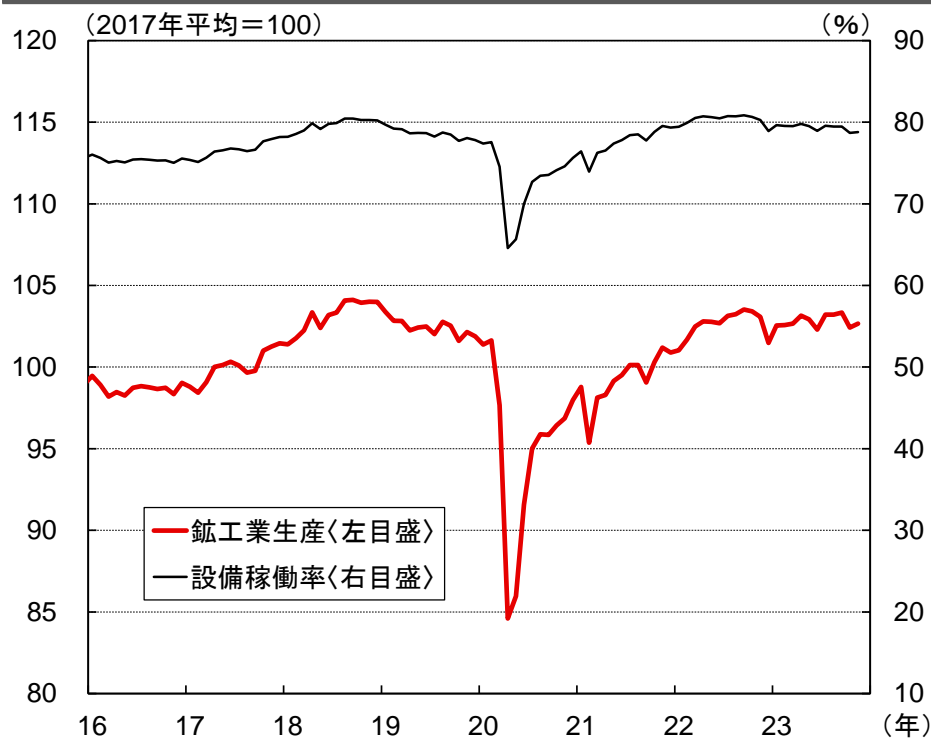


(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

## 2. 生産

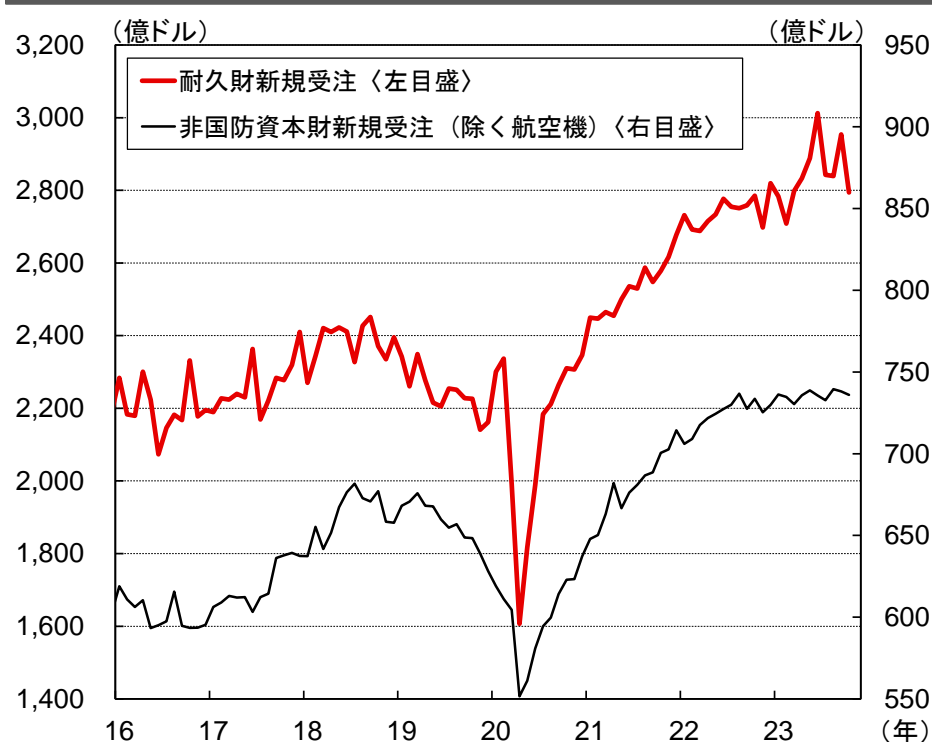
- 11月の鉱工業生産は前月比+0.2%と2ヵ月ぶりに増加(10月:同▲0.9%、改定値)。UAW(全米自動車労組)のストライキ終結により、「製造業」が同+0.3%(10月:同▲0.8%)、うち「自動車・同部品」が同+7.1%(10月:同▲9.9%)と回復。また、「鉱業」は同+0.3%と増加した一方、公益事業(電力・ガス)は同▲0.4%と減少。11月の設備稼働率は78.8%と、前月から0.1%ポイント上昇。
- 10月の耐久財受注は前月比▲5.4%と2ヵ月ぶりに減少。内訳をみると、「輸送用機器」(同▲14.7%)が、ストライキの影響を受けた「自動車・同部品」(同▲3.6%)や変動の大きい「民間航空機」(同▲49.6%)の大幅減少により、全体を下押し。設備投資の先行指標であるコア資本財受注(非国防資本財受注、除く航空機)は同▲0.3%と2ヵ月連続で減少。

鉱工業生産と設備稼働率の推移



(資料)FRB統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

耐久財受注の推移

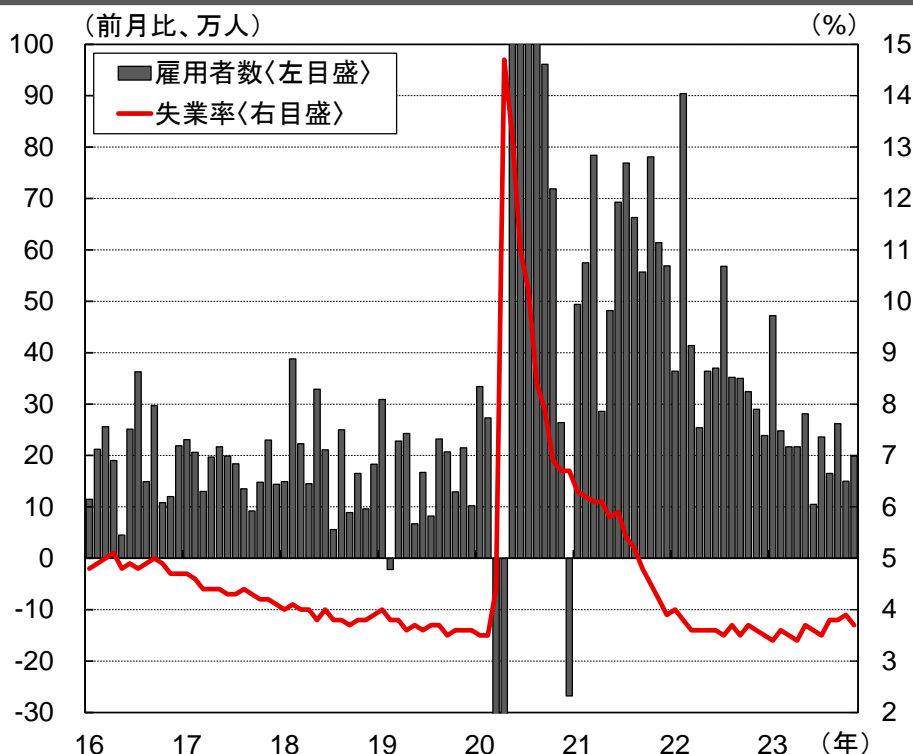


(資料)米商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

### 3. 雇用

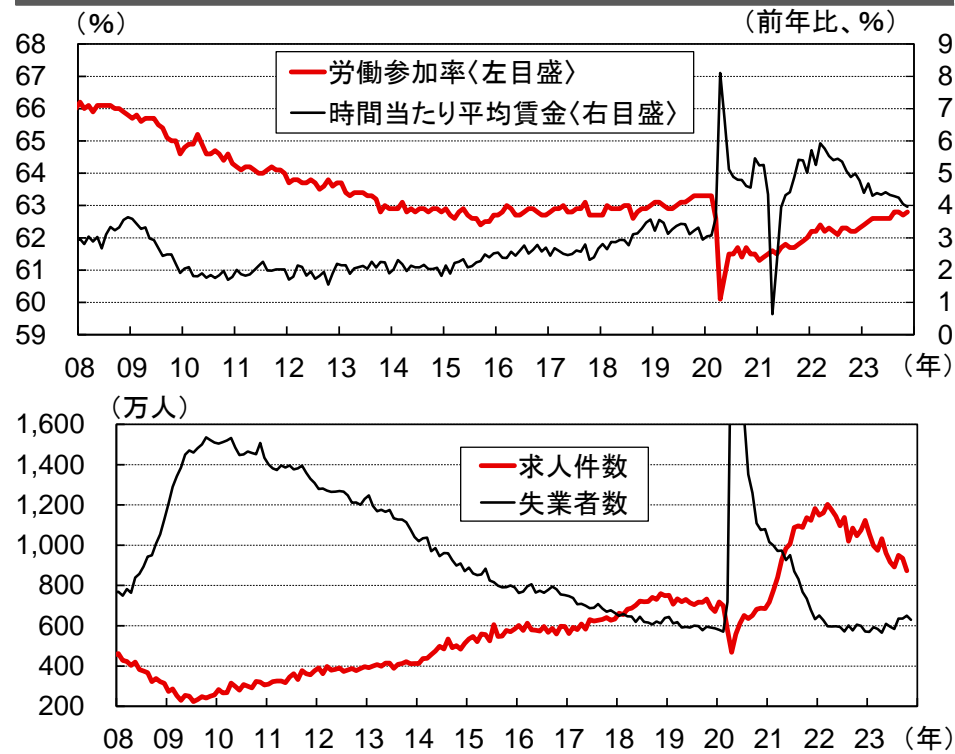
- 11月の非農業部門雇用者数は前月比+19.9万人と前月(同+15.0万人)から加速し、市場予想(Bloomberg集計:同+18.5万人)を上回る結果。業種別にみると、「製造業」(同+2.8万人)のうち「自動車・同部品」(10月:前月比▲3.2万人→11月:同+3.0万人)が、UAW(全米自動車労組)のストライキ終結を受けて前月の減少分をほぼ回復。また、「医療・社会扶助」(同+9.3万人)、「公務」(同+4.9万人)、「レジャー・接客」(同+4.0万人)等も増加。一方、「小売業」(同▲3.8万人)、「専門・ビジネスサービス」(同▲0.9万人)、「運輸・倉庫」(同▲0.5万人)等は減少。
- 11月の失業率は3.7%(前月差▲0.2%ポイント)と低下、労働参加率は62.8%(同+0.1%ポイント)と小幅改善。時間当たり平均賃金(民間部門)は前年比+4.0%(10月:同+4.0%)と前月から伸びは横這い。
- 10月の求人件数は、873.3万件(前月比▲61.7万件)と2ヵ月連続で減少。求人件数は失業者数の約1.3倍と依然として高水準にあるものの、労働需給の逼迫感は緩和しつつある。

非農業部門雇用者数・失業率の推移



(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

労働参加率・平均賃金・求人件数・失業者数の推移

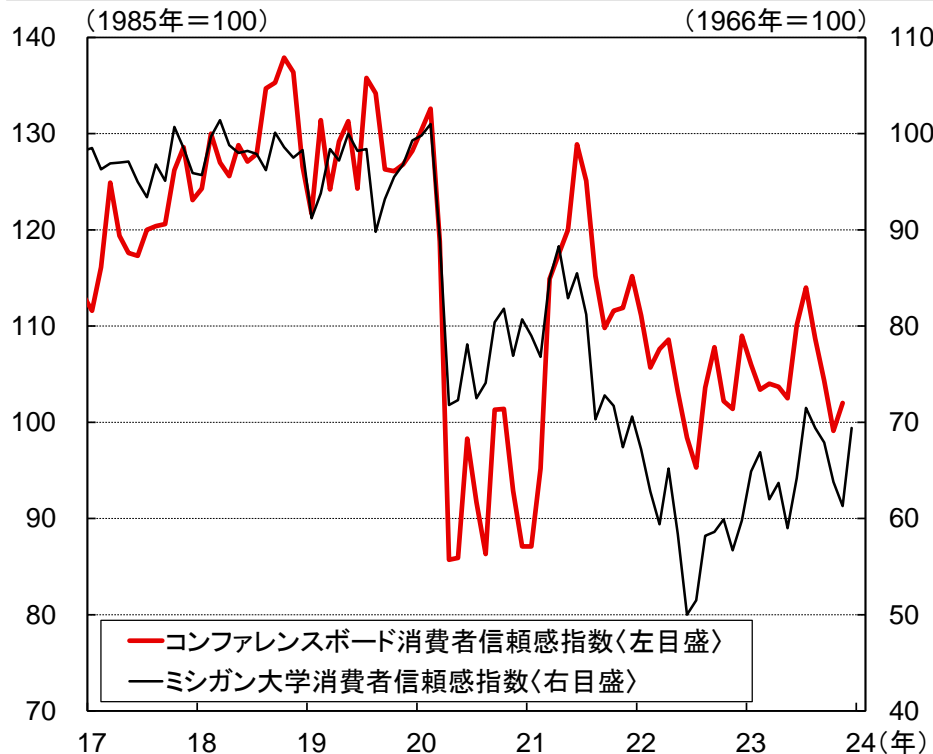


(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

## 4. 個人消費

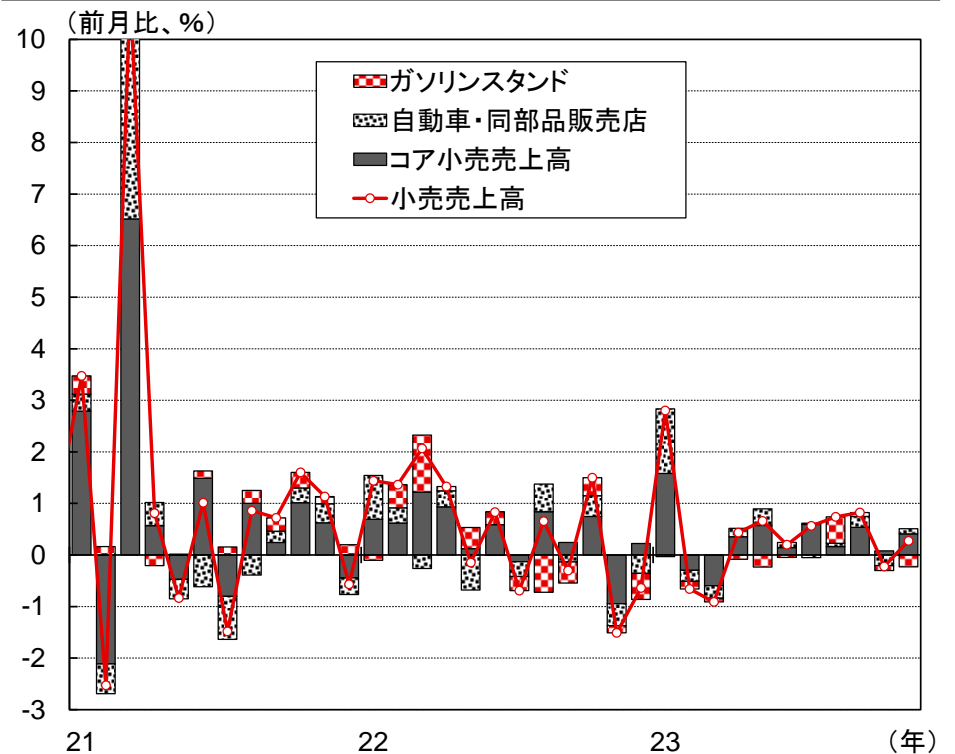
- 11月のコンファレンスボード消費者信頼感指数は102.0(前月比+2.9ポイント)と4ヵ月ぶりに上昇、12月のミシガン大学消費者信頼感指数は69.4(同+8.1ポイント)と5ヵ月ぶりに上昇。ミシガン大学調査の期待インフレ率は1年先が3.1%(前月:4.5%)と大きく低下、5年先も2.8%(前月:3.2%)と低下し、インフレ鎮静化への期待が消費者マインドの改善に寄与。
- 11月の小売売上高は前月比+0.3%と2ヵ月ぶりに増加(10月:同▲0.2%、改定値)。業種別にみると、「飲食店」(同+1.6%)が9ヵ月連続で増加し、サービス消費の堅調さを示した。また、「スポーツ用品・娯楽・楽器・書籍販売店」(同+1.3%)、「無店舗小売店」(同+1.0%)、「家具販売店」(同+0.9%)、「自動車・部品販売店」(同+0.5%)等が増加した一方、「ガソリンスタンド」(同▲2.9%)、「電機・家電販売店」(同▲1.1%)、「建材・園芸用品店」(同▲0.4%)等は減少。「自動車・部品販売店」と「ガソリンスタンド」を除くコア小売売上高は同+0.6%(10月:同+0.1%、改定値)。

消費者信頼感指数の推移



(資料)コンファレンスボード、ミシガン大学統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

小売売上高の推移

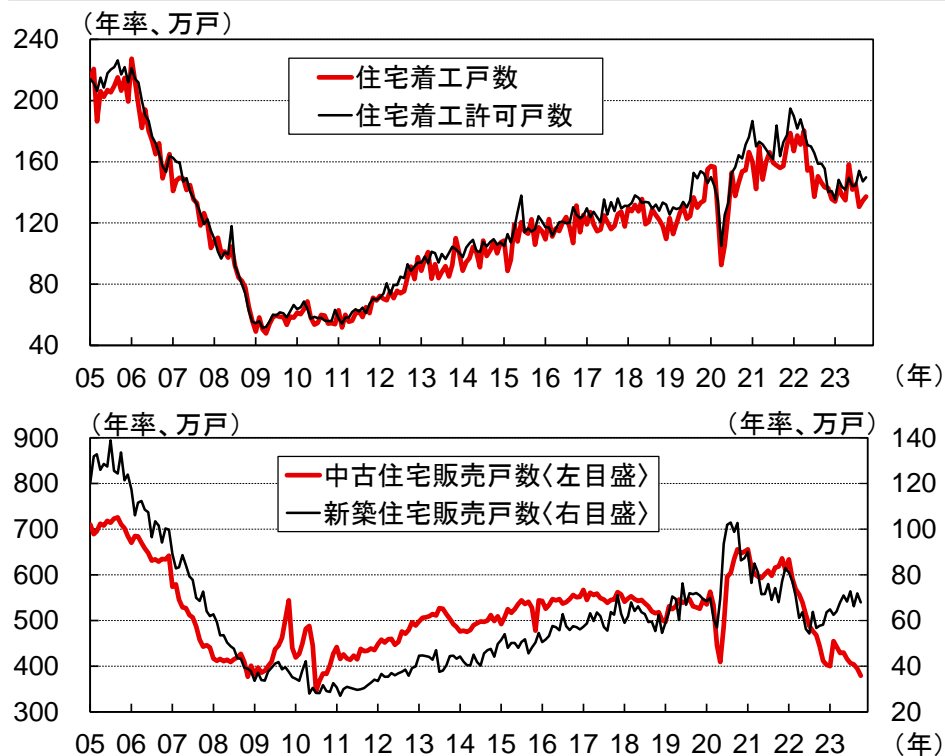


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

## 5. 住宅

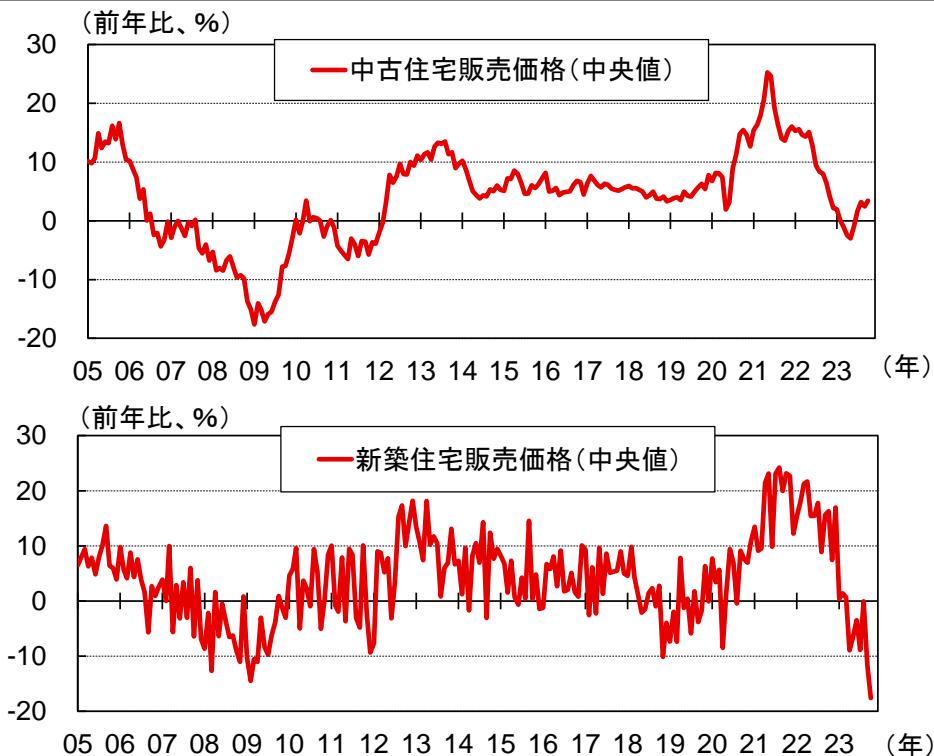
- 10月の住宅着工戸数は前月比+1.9%の年率137.2万戸(季節調整済)と2ヵ月連続で増加。内訳をみると、一戸建住宅は同+0.2%、変動の大きい集合住宅(5世帯以上)は同+4.9%とそれぞれ増加。先行指標である住宅着工許可戸数は同+1.8%の年率149.8万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに増加。
- 10月の住宅販売戸数は、中古住宅が前月比▲4.1%の年率379万戸(季節調整済)と5ヵ月連続で減少し、2010年8月以来の低水準。また、新築住宅は同▲5.6%の年率67.9万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに減少。
- 10月の住宅販売価格は、中古住宅が391,800ドル(中央値)、前年比+3.4%(9月:同+2.4%)と4ヵ月連続で上昇した一方、新築住宅は409,300ドル(中央値)、同▲17.6%(9月:同▲11.6%)と7ヵ月連続で下落。

住宅着工戸数・着工許可戸数・住宅販売戸数の推移



(資料)全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

住宅販売価格の推移



(資料)全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

## 6. 物価

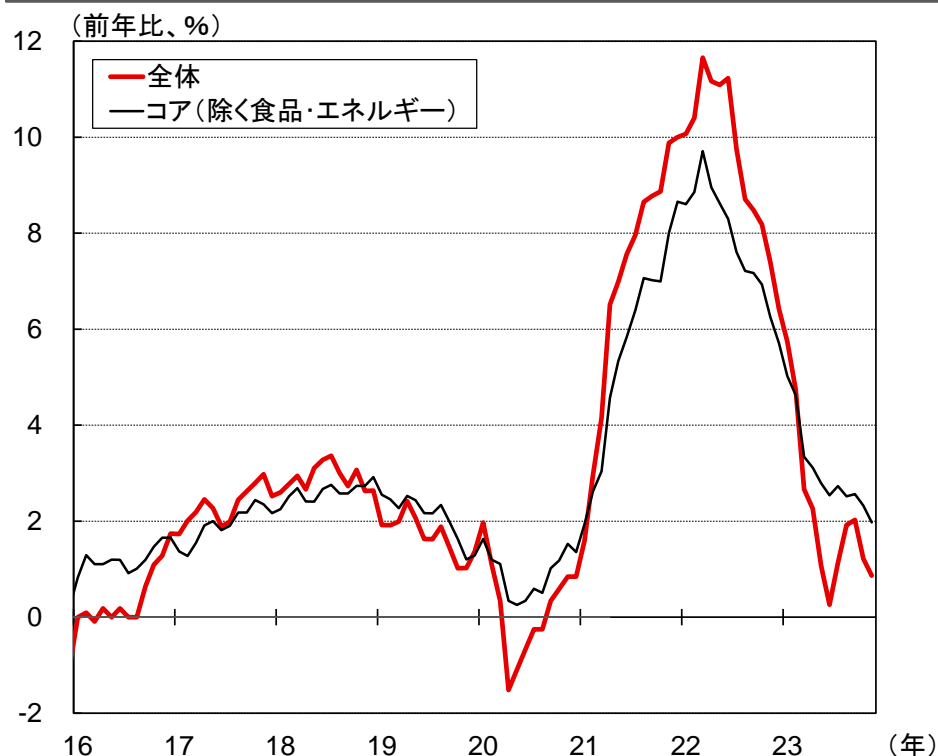
- 11月の消費者物価指数は前年比+3.1%（10月：同+3.2%）と小幅鈍化。「エネルギー」（10月：前年比▲4.5%→11月：同▲5.4%）の下落幅が拡大。一方、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+4.0%（10月：同+4.0%）と前月から伸びは横這い。コア指数のうち、コア財は同+0.0%（10月：同+0.1%）と小幅鈍化、コアサービスは同+5.5%（10月：同+5.5%）と前月から伸びは横這い。コアサービスのうち「住居費」（10月：前年比+6.7%→11月：同+6.5%）の伸びは鈍化した一方、「医療費」（同▲2.0%→同▲0.9%）は下落幅が縮小。
- 11月の生産者物価指数は前年比+0.9%（10月：同+1.2%）と2カ月連続で伸びが鈍化。内訳をみると、「財」は同▲1.5%（10月：同▲1.2%）と2カ月連続で下落。「財」のうち「エネルギー」は同▲8.4%、「食品」は同▲4.9%とそれぞれ下落。また、「サービス」は同+2.1%（10月：同+2.5%）、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+2.0%（10月：同+2.3%）と、伸びはそれぞれ2021年1月以来の低さ。

消費者物価指数の推移



(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

生産者物価指数の推移



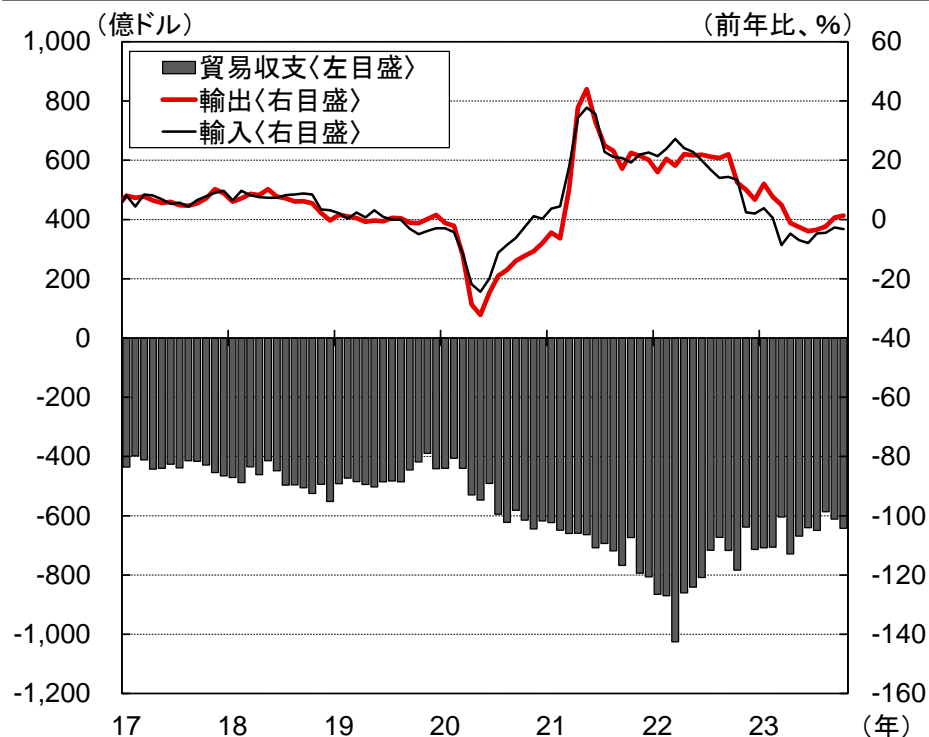
(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成



## 7. 国際収支

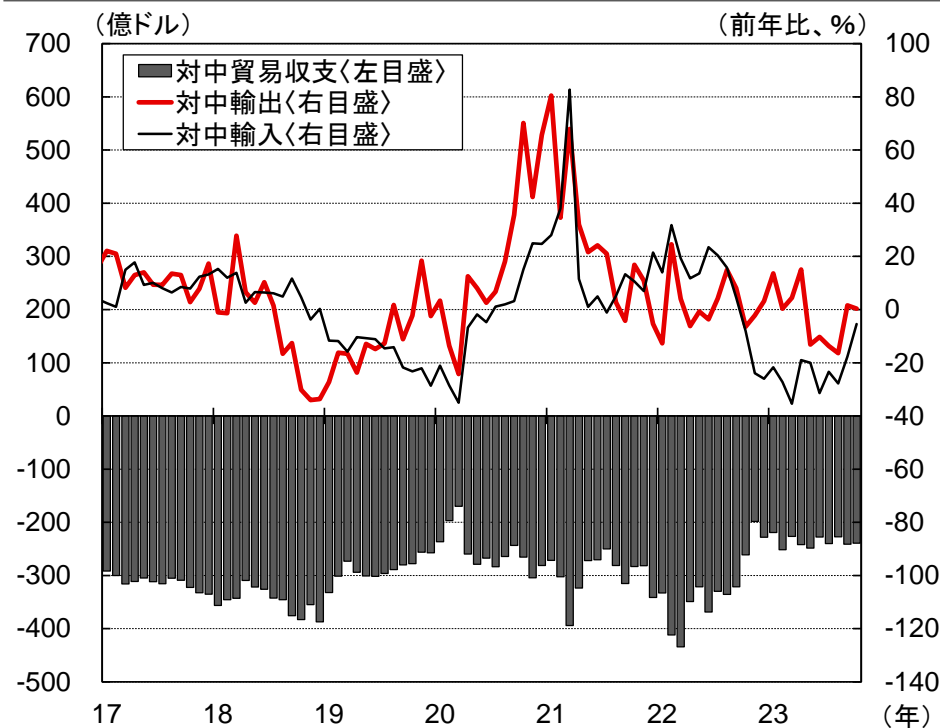
- 10月の貿易収支(財・サービス)は643億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比+5.1%(同+31億ドル)と拡大。輸出は同▲1.0%(同▲26億ドル)と4ヵ月ぶりに減少、輸入は同+0.2%(同+5億ドル)と2ヵ月連続で増加。前年比で見ると、輸出は+1.3%と2ヵ月連続で増加、輸入は▲3.2%と8ヵ月連続で減少。
- 財の貿易収支を国・地域別にみると、米国の貿易赤字(財)の3分の1程度を占める中国は10月に239億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比▲0.8%(同▲2億ドル)と縮小。対中輸出(財)は同+10.1%(同+13億ドル)、対中輸入(財)は同+2.9%(同+11億ドル)と、ともに2ヵ月連続で増加。前年比で見ると、対中輸出(財)は+0.3%と2ヵ月連続で増加、対中輸入(財)は▲5.4%と13ヵ月連続で減少。
- また、対EUの貿易収支は192億ドルの赤字(赤字幅は前月比+14.4%)、対メキシコは119億ドルの赤字(同▲2.1%)。

貿易収支と輸出入(財・サービス)の推移



(注)国際収支ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。  
 (資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

対中貿易収支と対中輸出入(財)の推移



(注)通関ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。  
 (資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成



## 8. 金融市場動向

- 10年物国債利回りは、11月以降は景気減速の兆しやインフレ率鈍化により、FRBの利上げが終了したとの見方から急速に低下。12月13日のFOMCでは、利上げのピークに達しているかピークに近いとの認識が示されたことに加え、利下げ時期に関する議論があったことをパウエル議長が明らかにし、金融市場における早期利下げ観測が一段と高まり、10年物国債利回りは3.9%台まで低下。
- ダウ平均株価は、10年物国債利回りの急速な低下を受けて11月に3,000ドル近く上昇。12月13日のFOMC後には早期利下げ観測が高まり、ダウ平均株価は1年11ヵ月ぶりに史上最高値を更新。

10年物国債利回りの推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

ダウ平均株価の推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

---

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名 : 株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室(ニューヨーク)  
1251 Avenue of the Americas, New York, NY 10020, USA

照会先 : 角田 ともみ e-mail : tkakuta@us.mufg.jp